

54 明治7年10月19日 菊池長閑宛

(長閑注記) 第六号 十月十九日認む

昨日漸ニ那珂先生に面談致候所昔書生風之未々除さるのか多端
 のか未々御返事無之由私ハ最早御用済ニ相成候事と存居候所大
 ニ相違致誠に御申訳無御座候舎号ハ鍛冶丁裏故水月楼か舎と
 (抹消)〔御〕名付可然直書之事ハ御申越無之故是而已差上候得共若御
 好ならハ猶又書具候趣申居候薬品ハ槌木下ニて御用済之事と被
 考候如何ニ御座候や昨夜一寸承候所青山も瓦解ニ相成候哉之由
 御存も有之候や藤村之家族も上京致矢張牛込ニて那珂之近辺ニ
 居を構候藤村も奉職以来二等進み二十五か三十円も得候得共大
 勢故余程難渋に相見得候当時義兵之事ニて建白書やら岩手県士

族の寄留する者え之廻章やらにて実ニ喧敷我々にハ煩候無御地
ニても募金之説も有之ならん致堂様方の御為とならハ御私邸え
朝廷之為ならハ直に県庁え出方諸人の所望有之間敷や一概にハ
不被云候得共虚名を飾輩ニ助力ハ先我々杯ハ御不同意ニ被思候
併身を献金を奉人の実意なる者ハ可賞可望候

那珂先生ハ線言御申訳有之候先便板垣え之書状御願申上候所
板垣ハ当時当地ニ在候由御序ニ為御登被下度候小学校用本エも
等級に因て色々可有之候得ハ改制後之用本と之御注文にてハ少
く分り兼候去共極最初之本而已にて宜候や御序ニ為御知被下度
候

御尊父様

武夫拜

(長閑注記)

(朱書)
「十月ノ廿五日達し同廿七日第七号ヲ以て返し」